

## 課題提供：京都市動物園

## 生き方の多様性は尊重されているか？

## ー野生動物と動物園の関係を知り、若者へメッセージを発信しようー

## 受講生・担当教員

## ■受講生

池浦 光志郎(経済)、久野 広登(経営)、王本 眞之介(現代社会)、  
磯谷 美乃加(国際関係)、樽木 渉(文化)、長崎 加奈(文化)

## ■担当教員 松尾 智晶

## 活動目的・概要

京都市動物園様からの課題を解決するにあたり、3つの目標が与えられました。

1つ目の目標が「動物園が社会に伝えたいメッセージを知る」ことです。実際園内に訪問するだけでなく、1日動物園体験に参加することで、ふれあいが大きな課題であることを知りました。そのメッセージとは「動物はヒトと対等な(友達のような)存在である」、「動物にストレスを与えるふれあいを避ける」の2つです。

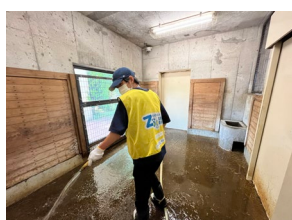
2つ目の目標が「そのメッセージにどのような価値があるかを考え、発信方法を探す」ことです。私たちは、このメッセージによって動物福祉を向上させることができると考え、キャッチコピー「ふれんず」を作成しました。また、発信方法として動画とポスターの作成を検討しています。

3つ目の目標が「実際に発信する」ことです。この目標については現在進めている途中です。動画はYouTube、TikTok、Instagramで投稿する予定です。ポスターは京都産業大学の掲示板や京都市動物園内、可能であれば京都市営地下鉄の駅構内など公共スペースにも掲載したいと考えています。

## 【京都市動物園へ訪問】



## 【1日動物園体験に参加】



## 【動物園で動画撮影】



## ◆主な活動

- 2022. 1. 23 ・課題説明
- 2022. 5. 22 ・生物多様性シンポジウム参加
- 2022. 5. 27 ・西田先生 (本学生命科学部) インタビュー
- 2022. 5. 30 ・足立先生 (本学現代社会学部) インタビュー
- 2022. 6. 9 ・中間報告会
- 2022. 6. 12 ・1日動物園体験参加

- 2022. 6. 30-7. 14 ・アンケート実施
- 【見学】神戸どうぶつ王国
- 【見学】天王寺動物園
- 【動画班・ポスター班企画立案開始】
- 2022. 7. 21 ・調査報告会
- 2022. 9. 8 ・最終成果報告会

## 活動の成果

# 「ふれんず！！」

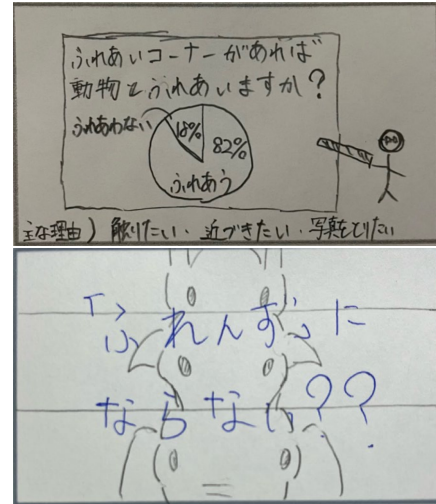
## 発信案1：ショート動画案（予定）

若者を対象者とし、YouTube・TikTok・Instagramで「ふれんず」というキャッチコピーを広められるような30秒程度の動画を投稿する予定です。

### 動画内容

動物園でのふれあいによって動物がストレスを感じていることを視聴者に認識してもらいます。そこで自分たちが考えた「ふれんず」という言葉を知ってもらい、ふれあいについてもう1度考え直してもらう呼びかけをします。

この動画を見た人が人間と動物が対等な存在であることを認識し、動物に配慮したふれあいの仕方を考えるきっかけにしてもらいたいと思います。また、京都市動物園様にとっても来園者の動物福祉の向上というメリットがあるのではないかと考えました。



絵コンテ(下書き)

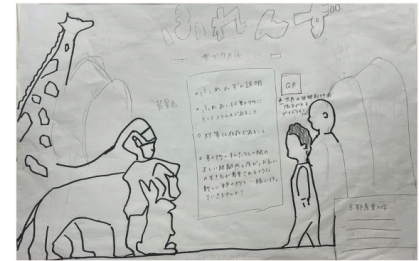
## 発信案2：ポスター案（予定）

若者を対象とし、「ふれんず」というキャッチコピーを広められるようなポスターを公共施設を利用し、掲載する予定です。

### ポスター内容

動物と人間が対等な存在であることを認識してもらい、自分たちが考えた「ふれんず」の言葉とその意味を知ってもらい、動物との関わり方についてもう1度考え直すきっかけにしてもらいます。

このポスターを見た人が動物に配慮した、動物と人間の両方にとっての新しい絆の形について考えるきっかけにして欲しいと思います。また、動画案と同様に動物福祉の向上に繋がるというメリットがあるのではないかと考えます。



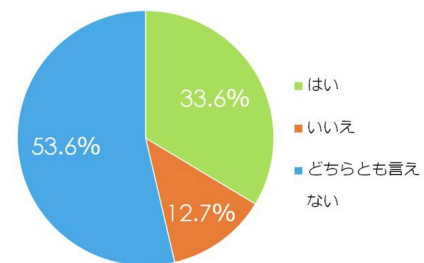
ポスター(下書き・ラフ案)

## アンケート調査

第一課題を解決するにあたり、大学生が動物園に対してどのような考えをもっているかを把握することを目的に、京都産業大学の学生を対象に2022年6月30日（木）～7月14日（木）にGoogleアンケートフォームを使用し、330件の調査を行いました。

アンケート結果から 5割以上の人がふれあい体験を楽しみにしていること、動物とふれあう理由は「せっかくだから」や「写真が撮りたい」など必ずしも動物が好きなのが動機になるわけではないことが分かりました。また、「動物園の動物は幸せだと思いますか」という質問では「どちらでもない」の回答が約5割でした。アンケート結果から、動物にとって動物園は動物を管理することに関して良い点も良くない点もあると大学生は感じており、ある程度は動物の幸せに関心を持っているのではないかと考えました。

動物園の動物は幸せだと思いますか？



アンケートの結果グラフ

回答数: 330件

## 活動を振り返って

**池浦** 課題提供機関様から実際に課題を頂いて、問題解決に取り組むという、中学・高校ではあまり体験したことのない、大学生ならではの実社会に直面した課題に深く関わり、実践的に取り組むことで、社会を身近に感じることができました。この活動を通して感じたことは、思い通りにならないことの方が多いということです。予期していたよりも修正点が多く、目標としていた期限に間に合わないことが多々ありました。今回の経験を踏まえて、全てが順調に進むことは珍しく、そして予想外の問題が発生することを前提として、何事にも早めに行動することが大切であると感じました。

**磯谷** 活動を通して、自分の得意不得意を改めて知ることができ、得意なところは率先して、不得意なことは挑戦する姿勢で活動に取り組むことで、受講前と比べ大きく成長することができました。また、学部と関連性がない課題に対して、どのように課題を解くか考え行動することや、課題解決に向けての話し合いを繰り返すことにより、問題解決能力や行動力、発言力が身につきました。この経験を今後の人生にうまく活用したいと思います。

**王本** 私はこの活動を通して、自分の持ち味と弱点を見つけることができました。チームには多様な役割がある中で、「私ができることはなんだろう」と考える機会が何度もあり、自分なりに試行錯誤しました。それだけ多く考える機会があったのは課題が難題であり、チームの協力が不可欠だったからです。失敗してもいい挑戦は大学生だからこそのものだと感じます。この授業で学べたことにとっても感謝しています。

**久野** この活動を通して様々な方との関わりが増え、そこから多くの新たな考えを得ることができたと思います。初めの頃は、与えられた課題に対してゴールが全く見えず、戸惑いがありました。しかし段々とチームの仲間とも打ち解け合い、自分の意見や考えを伝えることができるようになっていきました。先生方にインタビューを行ったり、動物園に訪問したりするなど、とても活動量が多く大変だと感じる時もありましたが、この活動を通して自分自身を成長させることができたと思います。

**樽木** 今回、チーム活動を通し、普段関わりの無い他学部の人と協力して課題に取り組んだことは、価値観が違う人とどのように意見の折り合いをつけなければならないか、他人の意見も大切であるが、自分の意見も大切にするといったことを実践的に学ぶ上で貴重な経験でした。また、今回の活動を通しチームで動くことを意識したことで自己肯定感を高めることができ、自らの長所を発見することができました。これらから、チーム活動において意見を大切にすること、チームで協力することを改めて学ぶことができました。

**長崎** 活動を通して、チームとして活動することの難しさを痛感しました。自分の考えを分かりやすく伝えることの難しさや考え方の違いから活動が思うように進まないこともありましたが、しかし、自分の足りない部分をサポートしてくれるメンバーの存在が大きく、メンバーのおかげで失敗を恐れずに活動することができました。この半年間の活動からチームの大切さだけでなく、傾聴力や自分の役割に責任を持つことの重要性についても学ぶことができました。

## 課題提供者からのコメント

### 京都市動物園 生き物・学び・研究センター長 田中 正之

昨年に続いて、「生き方の多様性は尊重されているか？一野生動物から学び、若者へメッセージを発信しよう」という同じ課題を出しました。ただし、この課題の背景にある動物福祉に関する状況は昨年度と同じではありません。コロナ禍で析出した、動物との「ふれあい」に伴う動物福祉的な問題について、中心的に動物園の現状を説明しました。この課題を深く理解してもらうために、学生たちとの質疑の時間を多くとりました。学生たちは自ら、他の先生や施設にインタビューをし、京都市動物園取材し、インターネットを駆使したインタビューも行ってくれました。このような課題を深く理解した上で、学生として何をすべきか、何ができるかを真剣に考えてくれたと思います。その成果として動画班とポスター班に分かれてそれぞれ制作したものに対して、プロではない彼らにいろいろ注文を付けましたが、くじけずに改良に取り組んでくれました。半年間ではありましたが、この間の学生たちの活動には合格点をあげたいと思います。

## 担当教員からのコメント

### 共通教育推進機構 准教授 松尾 智晶

昨年度と同じ課題ながら課題提供機関の田中先生曰く、動物園を取り巻く環境、動物の取り扱いに関する考え方が大きく変化しつつあるとのこと。すなわち、昨年度と同じアプローチでは足りないという困難倍増からのスタートでした。

今年度は6名のクラスで、まさに少数精鋭。自主的に往復はがきの抽選に応募して『1日動物園飼育員体験』に参加したり自然と動物に関するシンポジウムに参加したりと、6名の行動範囲はどんどん広がっていくもこの抽象的な課題を取り扱う難しさに愕然としていた様子もうかがえました。

専門書を読み、他園見学や専門の先生方に話を聴き議論を重ねる過程で、6名が産み出した言葉【ふれんず】。大切な存在、尊重するからこそあえて触れない選択をするのはどうか、という問いかけを含むこの言葉は、正鵠を射る成果です。大学生の発想の強さ、質の高さをあらためて実感した半年間でした。

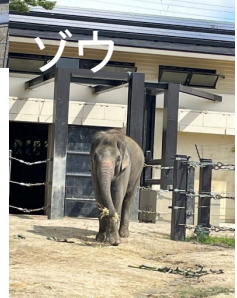
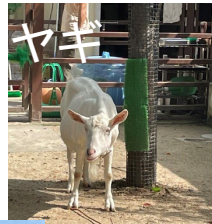


## 活動資料

## 集合写真

京都市動物園に訪問した際の動物達の様子

### 発信案① 動画案



最終成果報告会で服装をストライプシャツに統一し、最後に撮った記念写真です。動物園に関わる「檻」をイメージしており、さらに5か月間共に活動してきたことを示すために服装を統一させました。



『ふれんず』  
これは、様々な動物と触れ合いたいという「触れない」と、  
対等な関係の友人になるという「friends」を組み合わせた新しい言葉です。  
この言葉には、動物と私たちの良い関わり方をもう一度考えてほしい、という願いを込めました。  
動物と私たちのほのぼのとした距離感とはどのくらいでしょうか？  
同じ命を持つお互いの生活方を尊重し合う新しい絆のあり方を一緒に考えていきましょうか？

ポスターA



ポスターB



ふれんず

この言葉は、様々な動物と触れ合いたいという「触れない」と、  
対等な関係の友人になるという「friends」を組み合わせた言葉です。  
この言葉には、動物と私たちの良い関わり方をもう一度考えてほしい、という願いを込めました。  
動物と私たちのほのぼのとした距離感とはどのくらいでしょうか？  
同じ命を持つお互いの生活方を尊重し合う新しい絆のあり方を一緒に考えていきましょうか？



京都産業大学  
Zoo



Kyoto city zoo  
Zoo

### 発信案② ポスター一案